

「木村草太流 本とのつきあい方」



読書の意義、自身の読書体験、お気に入りの本のことなど、読書にまつわるあれこれについてお話しいたします。

講師：木村 草太氏

日時 平成30年10月22日(月)
午後6時30分～8時30分

会場 中原市民館 2階
多目的ホール（武蔵小杉駅下車・徒歩5分）

定員 300名（全席自由）

申込み 10月5日(金) 午前10時からいずれかの方法でお申込みください。

(1) 市立図書館・分館・閲覧所カウンターにある申込書にご記入の上、市立図書館各館の所定のカウンターまでお持ちください。

（整理券をお渡しします。お1人2枚まで）

(2) 電話（中原図書館 044-722-4932）でお申込みください（2名分まで）。

※先着順です。定員になり次第締め切ります。

問合せ 中原図書館（電話044-722-4932）

講師紹介

木村 草太 (きむら・そうた)

1980年神奈川県横浜市生まれ。東京大学法学部卒業後、同大学助手、首都大学東京准教授を経て、現在、首都大学東京教授。専攻は憲法学。テレビやラジオなどメディアにも多数出演。著書に『キヨミズ准教授の法学入門』、『テレビが伝えない憲法の話』、『社会をつくる「物語」の力』、『子どもの人権をまもるために』、『自衛隊と憲法』など。趣味は将棋、読書。



木村草太氏

©岩沢蘭

第36回

We Love!
KAWASAKI

このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本について、テーマを設けて紹介しています。

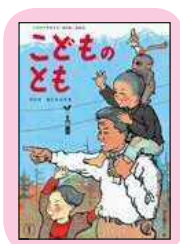
絵本作家・かこさとしさんが惜しまれつつも5月2日にご逝去されました。川崎にゆかりが深く、絵本を通して子どもたちを愛情深く見つめてこられました。工学博士として多くの科学絵本を世に送り出してきたことでも知られています。あらためて、かこさんの作品に込められた想いに触れてみませんか。

A：『だむのおじさんたち』 加古里子 さく・え 福音館書店 1959年／1976年

かこさとしさんの記念すべき絵本デビュー作です。

ダム建設現場のおはなしですが、この本の主役はダムではなく、「人」です。

作者は、あとがきで次のように言っています。“大きなダムのことより、それをつくった人々のこと—その人々の苦勞や、よろこびや、悲しみや—人間の労働というものすばらしさ”。この絵本に込められた当時の作者の想いを読み取ることができます。力強いタッチで描かれた人物画と文章は、読む者の心を揺さぶります。



こどものとも
だむのおじさんたち
加古里子さく・え 福音館書店

B：『宇宙—そのひろがりをしろう—』 加古里子 ぶん・え 福音館書店 1980年

私たちのいる宇宙は、いったいどこまで広がっているのでしょうか。ノミや昆虫、動物から恐竜まで様々な大きさの生き物が次々と登場し、ページを開くたびに私たちの住む世界が広がっていきます。大地から空へ…空から宇宙へ…空間の広がりが連続性をもって描かれることで、人類が歩んできた歴史、私たちが普段何気なく生活している地球、そして果てしなく広がる宇宙の大きさを絵本を通じて実感することができます。

資料集めに10年かかった本作は宇宙という壮大なテーマをできるだけやさしく、分かりやすく伝えたいという作者の想いが伝わってくる科学絵本です。



宇宙
—そのひろがりをしろう—
加古里子ぶん・え 福音館書店

C：『かこさとし 人と地球の不思議とともに』 河出書房新社 2017年

「だるまちゃん と てんぐちゃん」刊行から50周年記念の年に、科学絵本に重点を置いた本として出版されました。冒頭のかこさとしインタビューでは、科学の本の作り方と題して、絵本を書くことになったエピソードが語られており、絵本作家かこさとしの“始まり”を垣間見ることができます。その他にも、手書き原稿や「宇宙—そのひろがりをしろう—」の下絵、かこさとし自筆で研究者としての活動をまとめたメモ等、貴重な資料が掲載されています。また、工学博士・藤島昭氏や解剖学者・養老孟司氏との対談も収録されています。



かこさとし
人と地球の不思議とともに
河出書房新社